

上野 智弘

指導教員 野原卓准教授 高見沢実教授

1. 研究の背景と目的

少子高齢化が進む現代において、地方集落では過疎化や高齢化による地域社会の存続が危ぶまれており、地方集落に根付く豊かな文化や暮らしを次世代へ継承させていく方策が必要とされている。一方で ICT の進化により、新しい暮らし方や働き方を模索する都市部からの流入者も増えつつある。そのような中で、地方集落では既存の価値観に留まらず、移住者などの多様な価値観を内包するような集落の在り方が求められている。徳島県神山町では、NPO 法人グリーンバレー（以下、GV）が「創造的過疎」^{注1}という考え方で先駆的な地域づくりを行い、2011年に人口社会増を実現した。

そこで本研究では GV が行ってきた、地域外部とのつながりを創出した事業に着目し、地方集落における地域外部（移住者や短期滞在者などの外部住民）と内部（地域住民）が「共鳴」（第2章にて定義）することで、どのように集落活力の維持されているのかを明らかにする。また地域外部と内部が共鳴するために、重要となる要因を得ることを目的とする。

2. 研究の枠組み

2-1 研究の位置づけ

本研究では地域外とのつながりに関する3つの既往研究をレビューした上で、本研究の位置づけを行う。

(1) 「集落を住み継ぐ」ことで再生する集落研究 (1)

山崎ら⁽¹⁾は、都市と農村の対流を活かし、地域の社会関係の再編から、地域社会を持続させるために具体的な戦略や方法論の構築を試みた。その中で、本研究は外部と内部との関係に着目する事から、「地域外とのつながりで保つ」^{注2}集落再生論を系譜とする。

(2) 「地方都市の中心市街地におけるグローバル化時

共通する事柄（既往研究③より）		構成要素（生活面に関する内容を加味）	
1 点目	事業主と町内の地域内部や地域外部とが触れ合う →要素②に規定	要素①	異なる価値観を有する「主体」が存在する状態 （[地域内部] 地域住民 / [地域外部] 移住者・短期滞在者）
2 点目	地域のニーズや価値を知る →要素③に規定	要素②	地域内において「交流」が成されている状態
3 点目	自身の持つ資源や周辺環境を活用し、町に新たな機能や施設を作る →要素④に規定	要素③	地域内に存在する「価値」を発見する状態
		要素④	自身または地域内の「資源」を活用している状態
		要素⑤	地域内における適切な「役割」を担う状態

図1 共鳴の定義づけ

代の創造産業の形成プロセス」に関する既往研究 (2)

城所ら⁽²⁾による研究では、神山町で実現できる働き方・暮らし方に共鳴した外部住民・移住者による創造産業の形成と、そこで活動する外部住民・移住者を見た外部住民が、更に共鳴を起こして地域へ流入するような「人が人を呼ぶ」構図が見られた。

(3) 「移住者・Uターン者による商業の成長過程」に関する既往研究 (3)

既往研究 (2) を基礎とした研究⁽³⁾では、神山町のライフスタイルに共鳴した個々の事業主を対象に、成長過程に着目し、段階的に成長する様子を整理した。

(4) 本研究の位置づけ

本研究では、地域外との繋がりにおいて共鳴が重要と考え、「地域外部が地域のライフスタイルに共鳴することで集落活力の一部となる」研究領域に位置付ける。また既往研究では言葉自体への定義が見られなかった「共鳴」の定義づけを行い、GVの事業によって流入した地域外部による共鳴する要因と集落活力につながる様子を詳述する。尚、GVは神山町移住支援センターの指定管理を行っており、GVが運営する事業は移住につながるケースが多く見られることが特徴である。

2-2 共鳴の定義づけ

既往研究 (3) では、各対象事例の段階的な成長の中に「共鳴段階」があるとされており、「共鳴」の定義づけにおいて、各共鳴段階の内容から共通する事柄の抽出を行い、共通する事柄の要素分解を行う。（図1）但し既往研究 (3) で扱っている事例は、経済面に関する様子のみ記述されている。本研究では主体となる地域外部を移住者や地域滞在者であると前提としているため、要素を規定する際に経済面だけではなく、地域

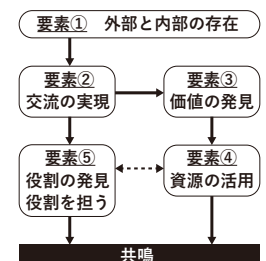


図2 共鳴の構成要素同士の関係性

内での生活に関する内容を加味している。また各構成要素同士の関係性は図2の通りで、要素①②で外部と内部の交流が実現する中で、要素③地域内の価値の発見または要素⑤地域内の役割の発見が行われる。要素③からは要素④資源の効果的活用が行われ、要素⑤では適切な役割を担うことで共鳴に至る。また要素④⑤は、互いに影響し合う相互関係である。

以上のように規定した内容を満たすことで、既往研究(1)による「常住住民は減っても、他出者、外部支援者、旅行者と関わることで(→要素①②⑤または要素①②③④)、地域に関わること(→共鳴)、活動量を落とすことなく(→集落活力維持)地域を住み継ぐことが期待できる」という内容に適すと考えられる。

そこで本研究では地域外部と内部の「共鳴」の定義を、要素①～⑤が必要十分条件となることと規定する。

2-3 研究方法

本研究では2章で定めた「共鳴」の構成要素を基に、4章で文献調査・ヒアリング調査により対象事例の内容を整理する。調査結果を分析し、神山町において共鳴がどのように生じ、また集落活力にどのように繋がっているかを明らかにする。さらに5章では、4章の結果から特徴的な共鳴する様子が見られた「神山塾」を対象に、ヒアリング調査を行い、共鳴に重要となる要因を考察する。

3. 研究対象の選定と概要

徳島県神山町は人口約5100人の町で、町の中央に流

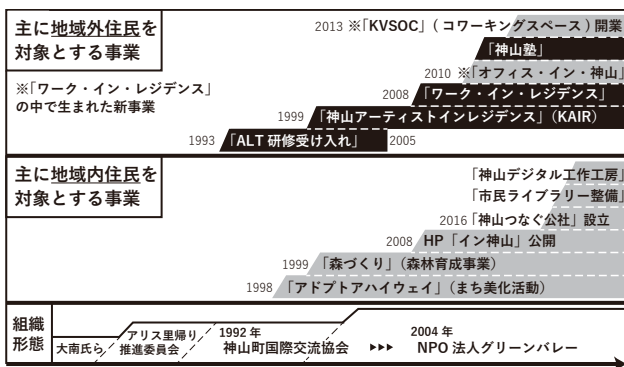


図3 NPO法人グリーンバレーの事業年表(研究対象事例: ■)

表1 各対象事例の概要

神山国際交流協会 (GVの前身団体) による、外国語指導助手 (ALT) の研修受け入れる事業	
(1) 業.	30～50人の英語圏から来た外国語指導助手を8月下旬に3泊4日で町内で研修する。その間、ALTは町民の家にホームステイで行う。(2005年に中止)
(2)	1999年からスタートした国際的なアートプロジェクト。毎年8月末から約2ヶ月余りの期間、日本国内および海外から3名～5名のアーティストが神山町に滞在し、作品を制作し、毎年10月下旬から作品展覧会を開く。
(3)	総務省のICT利活用モデル事業「イン神山」というウェブサイトを使う、若者移住支援事業。神山町にない仕事の働き手や起業家を募集し、空き家・空き店舗の活用を図る。
(4)	厚生労働省の職業訓練制度を用いた、地域滞在型人材研修事業。半年滞在学习して研修を受け、イベントプランナーや地域コーディネーターを目指すというものである。塾生の多くが都市部出身の若者であり、卒業後は町内に起業・移住したりする者や町内の企業に就職する者が多い。

れている鮎喰川の流域に沿って集落が点在している。主な産業は、スギやヒノキを中心とした林業と、日本一の生産量であるすだちの生産である。

研究対象の選定にあたって、本研究では「地域外とのつながりで保つ」集落再生論を取ることから、「事業の対象者を地域外住民」とする特徴を持ち、同町で先駆的な地域づくりが行ってきたGVの事業の中で、地域活性化につながる好事例として文献等で取り上げられることの多い取り組みから選定をした。(図3)

そこで本研究では、表1の通り、地域外住民を対象としている「ALT研修受け入れ」・「神山アーティストインレジデンス(以下、KAIR)」・「ワークインレジデンス(以下、WIR)」・「神山塾」の4つの事業を研究対象事例とする。

4. 外部と内部の共鳴による集落活力維持の実態

4-1 地域外との繋がりを作る仕組みと地域への影響

各対象事例の外との繋がりを作る仕組みと地域への影響を、文献・ヒアリング調査結果を基に、図4に示す。

(1)「ALT研修受け入れ」は、神山国際交流協会(GVの前身)による地域内部への協力要請と受諾した地域住民による3泊4日のホームステイによって成り立っている。この事業では、本事業へ協力した家庭と神山国際交流協会という地域づくり団体との関係性が生じるといった地域への影響が見られた。

(2)「KAIR」では、地域住民による国内外のアーティストへの地域滞在に関する生活面の支援・作品制作面の支援と、神山国際交流協会による宿泊施設やアトリエの提供が行なわれている。この事業では、アーティストが地域住民による支援の中で魅力的に感じた人や暮らしを題材にした作品作りや、そのような神山町の空気感を気に入り移住する者がいる点、また地域住民も町内に設置された作品や作品作りを通して集落生活に

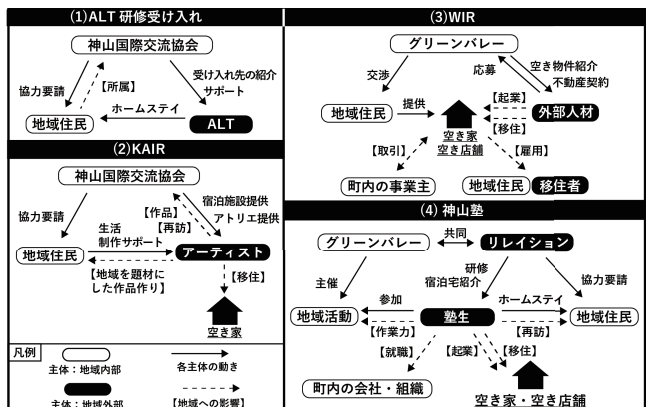


図4 地域外との繋がりを作る仕組みと地域への影響

表2 共鳴の構成要素ごとの各事業の内容 (○…小分類の内容を満たす項目)

要素間士の関係	ALT 研修受け入れ	神山アーティストインレジデンス (KAIR)	ワーキンレジデンス (WIR)	神山塾	小分類
要素①	○ ALT (外国語指導助手)	○ 国内外アーティスト	○ 起業家 フリーランス	○ 受講生 ※移住者・塾生 0806	主体が地域外部 (移住者または短期滞在者)
	○ 神山国際交流協会 ○ ※ホームステイ先の家庭	○ 神山国際交流協会 (GV) ○ ※生活・制作サポートする地域住民	○ グリーンバレー ○ ※開業予定先の建物の所有者	○ ※地域活動先の地域住民 ○ ※ホームステイ先の家庭	主体が地域内部 (地域外部に該当しない地域住民) ※事業への協力者
要素②	○ ホームステイ先との食事等の日常生活行為	○ 地域滞在時の生活のサポートによる交流		○ ホームステイ先との食事等の日常生活行為	日常生活行為に関わる交流 (掃除・買い物・子供の世話など)
	○ ホームステイ先家族との町内観光 歓迎会への参加	○ 作品制作を通じた交流	○ 本事業への応募 開業に至るまでのサポート	○ 町内のお祭りへの出店参加 農家のお手伝い	生産的に行き関わる交流 (賃金を伴う仕事、農業など)
要素③		○ 地元学校でのレクチャー		○ ホームステイ先家族との町内観光 町内のイベント企画運営 (歓迎会等)	余暇的に行き関わる交流 (読書・スポーツ・散歩など)
				○ 森づくり等のまち美化活動への参加	社会参加活動に関わる交流 (町内会・ボランティアなど)
要素④			○ 町に足りない商業	○ 町に足りない商業 人手不足 (労働力)	地域に求められている物や活動 (商機や自分の居場所としての価値)
		○ 歴史・地誌 ○ 地域住民の人間味と暮らし	○ 自らの手で作る暮らし 空き家・空き店舗	○ 密な人間関係 実践的な神山の生活	地域に存在する物や活動
要素⑤		○ 滞在時に交流した地域住民	○ 取引相手の町内の事業主	○ 地域住民・移住者・塾生 0806	信頼関係や交換関係などによる人脈
		○ ※アトリエ	○ ※空き家・空き店舗	○ 空き家・空き店舗	建物や土地や機械などの資材 ※事業内での提供によるもの
要素⑥		○ アート	○ 前職・趣味等で培った技術	○ 前職・趣味等で培った技術 若い労働力	技術や労働力といった行動源
		○ 移住後の集落自治活動に参加	○ 移住後の集落自治活動に参加	○ 移住後の集落自治活動に参加	自治活動に携わる (自治会や町内会などの活動)
		○ 神山町を題材にした作品作り 作品の展示	○ 町内に足りない業種の起業	○ 塾期間に事業計画した内容で起業 町内の企業・組織に就職	経済活動に携わる (開業・独立や雇用などの活動)

刺激が得られている点で、地域への影響が見られる。

(3) 「WIR」においては、GVによる空き家・空き店舗の所有者への交渉と地域外部へのHP上での空き物件情報・特定の職種に関する募集を掲示することで、理想とする暮らし方を求める外部人材から応募が集まる。この事業では、募集段階から町に必要と考えられる職種を想定するため、開業後には町内の事業主との取引が発生するといった地域内経済循環が起きている点や地域内雇用が生じる点で、地域への影響が見られた。

(4) 「神山塾」においては、GVと株式会社リレイション(以下、リレイション)が共同で地域滞在型の人材育成事業を行っており、リレイションから塾生へのホームステイ先の紹介と、主にGVが主催している地域活動を地域実習先としている。この事業では、半年間の地域滞在で地域住民との関係性が築かれ、再度お世話先への訪問やそのまま町内の会社・組織に就職する点、また森林育成事業やすだち農家のお手伝いなどの人手不足になっている地域活動に対して塾生による作業力が補っている点で、地域への影響が見られる。

以上のように地域外との繋がりを作る仕組み・地域への影響は事業ごとに異なることが分かる。またすべての事例で、地域内部の協力者の存在が確認できた。

4-2 共鳴の実態

上記の地域への影響が、どのような要因で生じたのかを、2章で定めた共鳴の構成要素①～⑤に照らし合わせて分析する。(表2)また表2の「小分類」の通り、調査結果の各要素の内容を分類して、整理を行った。

表2を見ると、共鳴が生じた「KAIR」「WIR」「神山塾」では、異なる価値観を有する主体-要素①(事業によ

って属性の異なる[外部人材]と地域住民である[GV]と[事業への協力者]が存在し、[食事]や[町内の社会活動]、[主体が有する生業]に関わる交流-要素②が行われた。そこで主体である地域外部が得た地域の実情(職種や人手等の[町に求められているもの]や地域独自の暮らしや人等の[町に存在するもの])に価値-要素③を見出し、さらに交流を通じて築いた[人脈]や元々自身が[前職や趣味等で培った技術]の資源-要素④を活用した結果、移住後の生活の中で[集落自治活動への参加]や各々町内において[経済活動へ携わる]ような役割を担う行為-要素⑤が生じる、といったような共鳴が生じたことが明らかになった。

また事業に関わった地域内部と外部へのヒアリング結果を基に、各事例における「集落活力」に関する事柄を表3にまとめた。

表3 各事例における集落活力の様子(ヒアリング内容一部抜粋)

KAIR	「1年間の少しい出会いだけれども、作家さんが作品を残す様子を見られる空間の中に、自分があること自体が本当に楽しかった」(地域住民) 「展示期間中に一度見に来て、その後も何度か来てくれる方がいる」(映像作家)
WIR	「神山の味を伝承してくれるのは有り難い」(地元住民) 「町内で有機栽培農法で作られた野菜を仕入れている」(宿泊施設オーナー)
神山塾	「(塾生の)結婚報告や出産報告に来てくれて、息子娘の感覚」(地域住民) 「空き家を水回り以外は自分から直しながら、住んでいる子が多い」(地域住民) 「ものづくりが好きで旅行先で見た染物の技術を、町内の染物屋に話をする中で、合わさったモノが実った」(塾生OG)

表4 「神山塾」における集落活力分析

「神山塾」を例にし、共鳴を構成する要素に照らし合わせると、表4のように整理できる。このように外部と内部の共鳴
a 「(塾生の)結婚報告や出産報告に来てくれて、息子娘の感覚」
要素① 受講生(外部)/受け入れを行ってきた地域住民(内部)
要素② 放課後の食事や寝泊まりなどのホームステイ
要素⑤ 親子のような関係性が築かれる
b 「空き家を水回り以外は自分から直しながら、住んでいる子が多い」
要素① 受講生(外部)/空き家の持ち主・紹介者(内部)
要素② 塾内や放課後での交流
要素③ 町内に存在する修繕すれば生活出来る空き家
要素④ 紹介者である地域住民との信頼関係
要素⑤ 空き家持ち主から承を得て、自ら修繕しながら家を住み継ぐ
c 「ものづくりが好きで旅行先で見た染物の技術を、町内の染物屋に話をする中で、合わさったモノが実った」
要素① 受講生(外部)/町内の染物屋の店主(内部)
要素② 日常会話
要素③ 町内に染物屋があること
要素④ 旅行先で見た染物の技術
要素⑤ 既存の染物技術と外の染物技術の組み合わせによる商品作成

が、集落活力の維持・向上に繋がると推察できる。

5. 「神山塾」における外部と内部の共鳴が生じる要因

4章で共鳴を構成する要素を多項目満たしていた「神山塾」（表5）を対象に、事業の設計上、どのような点で外部と内部の共鳴が生じる要因に寄与しているかを分析する。そこで運営を行うリレイション・塾生の受け入れを行ってきた地域住民・町内に残る卒塾生2名へのヒアリング調査を行った。

表5 「神山塾」基礎情報

基礎情報	
趣旨	地域コーディネーター、起業家を養成することを目的とした各種雇用促進・人材育成制度を利用した民間職業訓練。訓練期間を「ニュートラルな時間」と捉え、ビジネススキルの習得だけではなく、自分らしく暮らすために大切にしたいものは何かということを考えることも目的とする。また講義外の「自由な時間」を重視している。
利用制度	第1-2期：基金訓練 / 第3-6期：求職者支援訓練 / 第7-9期：徳島県地域創生人材育成事業 / 第10-11期：求職者支援制度
受講人数	121名 期間 年2回・半年間実施(2010年12月より開始)
主なカリキュラム	イベントに関する計画に必要なリソースの収集・整理 / アイデア・コンテンツ作成 / コンセプト・マーケットの情報収集分析 / イベント計画書作成 / イベント運営
実績	人材定着率 - 徳島県内移住率 : 48% (終了後3ヶ月時点) / 就職率 : 約80%

また分析の際の着眼点として、表4の内容から重要となる点を考察したところ、2つの着眼点が得られた。

5-1 地域滞在期間の在り方に関する考察

まず一つ目に、表4-a・4-b共に、要素①主体である外部と内部の関係性が強い点（親子のような関係性）が特徴的である。またそのような関係性が築かれる要素②の交流では、「塾期間中」のホームステイ等の交流といったように「地域滞在期間」の在り方が重要な要因の一つだと考えられる。

神山町に移住した塾生へのヒアリングの中で、「滞在期間」に関して表6のような発言があり、また表7の10期生のように、ある時期に居合わせた地域住民との交流を契機とした、「人脈の広がり」が見られた。参考までに、移住してGVに勤める職員も「夏季にすだち収穫の手伝いする中で農家との関係性が一気に広がった」といった発言があり、アユ釣りやすだちといった地域が持つ独自の年間サイクルが、地域住民との人脈を広げる機会となると考えられる。

表6 「滞在期間」に関する発言

7期生	期間中に見られなかった神山の四季をもう少し見たく、残っている
10期生	(塾期間) ちょうどいい。それ以上長いと。5か月も結構余裕で、別に1か月でも3か月でも悪くないかもしれない。

表7 「人脈の広がり」に関する発言

10期生	「実習室に週一でたこ焼きを売りに来る地域の方と仲良くなって、その方が鮎釣りを得意としており、夏場（漁解禁）だったため週末一緒に釣りに行った。」 「その人が営む居酒屋でバイトをしていて、そこでGVの方々と顔見知りになって、今（GVに就職）に繋がっている。」
------	--

また各対象事例の実施期間を比較すると、期間の設定に違いが見られる。（図5）

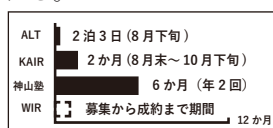


図5 実施期間の比較

そこで地域に根付く年間サイクル等の暮らし方を反映した「期間」の設定が重要だと考えられる。

5-2 地域住民の役割に関する考察

二つ目に、表4-b・4-c共に、要素①の地域内部の主体と要素③④で関わる住民に関する価値や人脈が一貫しており、また要素①の地域内部が要素⑤にも関わっていることも特徴的である。そのように地域住民が関わる中で、どのように要素⑤が実現できるかといった地域住民が果たす「役割」が重要であると考えられる。

塾生の受け入れを行ってきた地域住民によると、「2期生の子が卒塾後に、「神山に住みたいから家を探してほしい」と言われたから、一緒に町内を走り回って、空き家の持ち主をお願いに行った。」とあり、塾生は卒塾後もホームステイ先との関係があり、家探し・交渉といった実務的な支援によって移住する者が見られた。

また神山塾における、塾生の生活サポートに関して、運営側によると「町内で（運営者自身が）尊敬して信頼している人を紹介している。またメンターとして地域の人や、神山に残っている卒塾生がいるため、常に相談できる体制になっている。」といったように、町内にいる地域住民やすでに参加した者による協力が、塾生の心の拠り所となっていると考えられる。

このように本事業の協力者によるメンターなどの精神面や移住後の実務的内容へのサポートが、移住や町内での起業・就職といった行動に繋がると考えられ、事業への理解がある「協力者」が重要と考えられる。

6. 結論

4章では、2章で定めた共鳴を構成する要素を満たす「KAIR」「WIR」「神山塾」が、共鳴を生じる地域外との繋がりを作る取組であることが分かった。また共鳴によって、集落活力が向上に繋がっていることが推察された。5章では、そのような取組にて、地域の暮らしに即した「期間設定」と、地域外との繋がりに対して理解のある地域内の「協力者」に留意すべきだと考えられた。

【補注】

注1) 大南氏 (GV 理事) による「外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで人口構成の健全化を図ったり、農林業だけに頼らない多様な働き方を可能なビジネスの場としての価値を高め、バランスの取れた持続可能な地域を目指す」⁽⁴⁾ という考え
注2) 地域外との往来や交流を通じて、地域内外との社会関係を大切にすることで地域を保全・再生する方法⁽¹⁾

【主な参考文献】

(1) 山崎義人・佐久間康富 編著(2017)『住み継がれる集落をつくる-交流・移住・通いで生き抜く地域』学芸出版社 / (2) 城所哲夫・近藤早映 (2016) 『地方都市の中心市街地活性化が地域活性化に果たす役割に関する研究-イノベーション・タウン仮説の提示とその妥当性の検討-』日本都市計画学会論文集, VOL. 51-3, pp. 791-797 / (3) 上野智弘 (2018) 『地方都市を豊かにするライフスタイル産業の成長過程に関する研究-徳島県神山町を事例として-』建築学教室卒業論文梗概集 / (4) NPO 法人グリーンバレー・信時正人 (2016) 『神山プロジェクトという可能性』廣済堂出版